Popoki

Newsletter No.76　2011.12.23

popokipeace@gmail.com
http://popoki.cruisejapan.com

もう 12 月ですね。2011 年はあとわずか。特に被災地のみなさまにとって、2011 年は大変な年でした。でも、ポーポキには新しい友だちがたくさんできました。
新しい年は、喜びや笑いがあふれるしあわせで平和な年となりますように！

HAPPY HOLIDAYS FROM POPOKI
AND THE POPOKI PEACE PROJECT

http://popoki.cruisejapan.com
popokipeace (at) gmail (dot) com

Popoki's Hot News!

あとほんの少しです！

「ポーポキ友情物語　東日本大震災で生まれた私たちの平和の旅」は、今月中に発売されます。

被災地などで展開している「ポーポキ友情物語プロジェクト」の記録です。
売上の一部は被災地へおくる予定です。
ぜひ回りの方々に広めていただきたいと思います。
今すぐなら、ポーポキ・ピース・プロジェクト又は出版社（エピック）から入手できます!!!

１月１７日前後からは国内の本屋さんで買うことができます。詳しくは、ポーポキ・ピース・プロジェクトまたはエピックへお問い合わせください。

「一言の平和」コーナー
ポーポキのお友だちのマサトニャんから届いた平和：
「特に用事があるわけでもないのにかかってくる、家族や友達からの電話；特に用事があるわけでもないのに届く、家族や友達からのメール・「特に用事はない」のに気にかけてくれる家族や友達がいることが幸せです。」

あなたは今日、どんな「平和」に出会いましたか？ぜひお聞かせください。ポーポキのメール popokipeace@gmail.com へ！

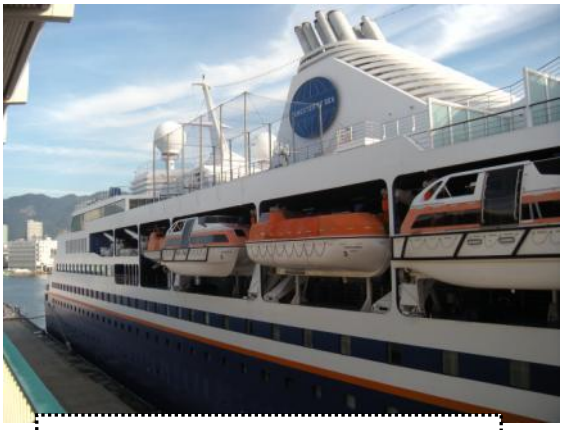
http://popoki.cruisejapan.com
popokipeace (at) gmail (dot) com

Popoki Peace Project

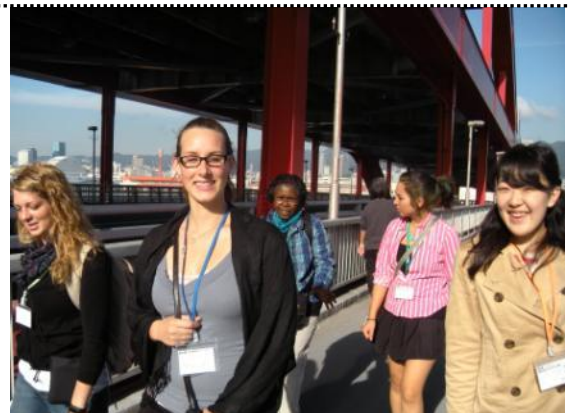
Interchange between SAS and Popoki's Friends

2011. 11. 12.（土） 会場 兵庫医療大学

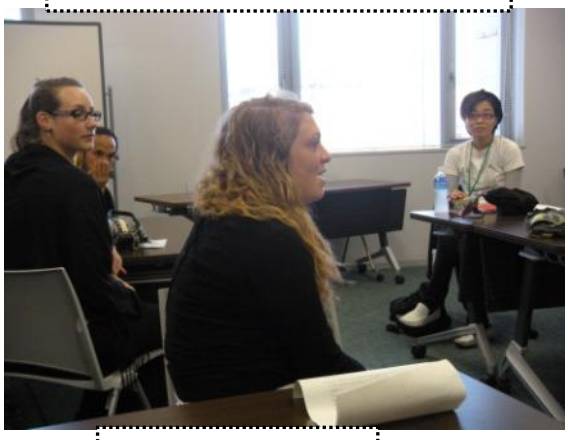
写真＆編集者 永 重 史 郎



Semester at Sea "Explorer"



学校への途中で



自己紹介

広島・長崎の原爆についての DVD

2011年11月12日（土）私たちは、ポーポキ・ピース・プロジェクト（リーダー ロニー・アレキサンダー教授）によるワークショップを行った。
ゲストは、12日早朝神戸にやってきたアメリカの洋上大学（Semester at Sea）の学生たちです。
学生の一人に聞いたところ、SASは30か国に寄港している。"Explorer"には、学生約450人と先生70人が乗船している。学生9人と先生1人と、ポーポキ・フレンズのメンバー20人を含めた29人がワークショップに参加した。

午前は、自己紹介に始まり、テーマ"核問題"を討論した。英語での討論はハードワークだったかな？
学生たちは、広島と長崎のDVDを見て大変ショックを受けたように思われた。でも、討論は真摯に活発に行われた。学生たちと社会人学生の受け止め方の違いは非常に興味深かった。学生たちは、被爆者に同情していたが、どのように表現していいのか分からなかったようである。社会人学生は、核政策を批判し鋭く核問題について述べていた。

http://popoki.cruisejapan.com
popokipeace (at) gmail (dot) com

←核問題の発見

→

核に関する発表

午後は、ピースマップづくりのため4グループに分かれて、ポートアイランドを散策し、そして、お互いの理解を深めた。私たちは、散策後部屋へ戻ってピースマップづくりをした。作成されたピースマップは、それぞれ特徴が“平和”のメッセージに表れていた、匂い、景色、音、色・・・。
そして、みんなの協力で素敵なピースマップが完成した。
最後に、私たちは再会を約束して、ワークショップを終えた。ポートアイランドは39年経過した人工島であるが、50年後はより和やかな街になっているだろう。
とにかく、素晴らしい一日で、とても楽しかった。

共生している ？

1995 の痕跡

もう一つの
Po-愛 ？

ピースマップつくり

完成したピースマップと一緒に

Me Ka Mahalo ！！

http://popoki.cruisejapan.com
popokipeace (at) gmail (dot) com

ポートアイランドにてセメスター・アット・シーとピースマップ

英文・Aastha Ranabhat
和訳・有山哲

2011 年 11 月 12 日、ポーポキとそのお友達はセメスター・アット・シー(Semester at Sea 以後 SAS)のすてきな人たちとお会いする機会がありました。SAS の人たちは世界中を航海して回っている、まさに動く大学から来てくださった本当に面白い学生、スタッフの方々でした。1つ、また1つと港を放浪し、新たな国、文化、そして人々を発見していく…そんな人たちだったので、その日に私たちが計画していた任務を委ねたときも、私たちも冒険し、未知の領域へと飛び込んでいきました。舞台であるポートアイランドは、神戸にある人工島です。そんな場所で SAS の人たちと、午前中は「平和と健康」に関する問題にふれるちょっとしたワークショップ、続いて午後のポートアイランドを観察しながら散策し、地図を作っていくというプログラム内容でした。これらのプログラムの目的は異なる国籍や文化、世代の人たちとの交流の中で、考えや認識を交換することでした。

午前中の活動

午前中の活動は、a) 平和を感じるエクササイズ、b）DVD 鑑賞（ヒロシマとナガサキ）、c) KJ 法による核に関することへのブレインストーミング、d) 絵で平和、という4つに分かれていました。

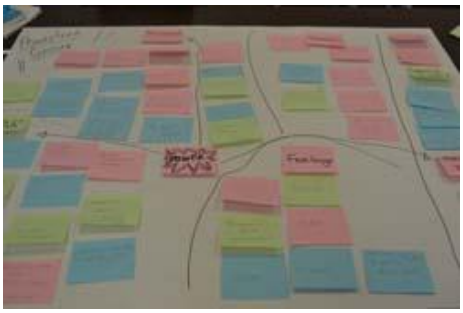
a) 平和を感じるエクササイズ
このプログラムはこの日の全体的な目標にちょっとだけふれてみようとするもの、つまり、感性を通して平和を理解しようとするものでした。このエクササイズで、参加者のみなさんは五感（聴覚、視覚、触覚、嗅覚、味覚）を通して感じる、平和に関する生活の中のエピソードをシェアしあいました。そして、そんなふうにお互いに話をすることで、尊さ、心地よさ、お互いの結びつきを理解する感覚を育みました。部屋中に広がったそれらの話は良い感覚も悪い感覚も平和へとつなげることができる、そんな考えを与えてくれました。例えば、メガンさんはテニスコートを見ると友達や自分の子供の頃のことを思い出すと言っていたし、ミキさんはたばこのにおいが東北にボランティアへ行ったときに楽しくおしゃべりができたバスのドライバーさんのことを思い起こさせてくれると言っていました。

b) DVD 鑑賞（ヒロシマとナガサキ）
このプログラムでは、1945 年にヒロシマ・ナガサキに投下された原爆についての DVD を観ました。日本を語る上で欠くことが出来ないこの悲劇は人類の歴史を黒く染めていきました。この DVD は紛争、平和、核による災害、健康の危機など他にもさまざまな問題について触れていました。そのドキュメンタリーを観ている間、部屋の中は沈黙の空気が流れ

http://popoki.cruisejapan.com
popokipeace (at) gmail (dot) com

ていました。

c) KJ 法による核に関することへのブレインストーミング
これは午前中の活動の中でももっともお互いの結びつきを強める精力的なプログラムでした。ここでは、5，6 人で 4 つのグループに分かれて行われました。そして、「核がある社会」のメンバーであることをどのように感じるか、あるいは意図的あるいは非意図的に「核の世代」の一員になっていること、核による安全な、あるいは危険な世界で生活をしていることをどのように考えるか、を思いついた意見を次々と出し合う KJ 法を通して表現していきました。



それぞれのグループで紙に思いついたことを次々と書き出していったあとは、まずラベリングをし、それごとに出た意見を分類して、そしてそれぞれの分類同士関係のあるものを線で結んでいき、最終的に出来たものについて参加者全員に向けて発表しました。この作業をすることで参加者のみんなは文化や生活環境が異なっていても、問題意識や思いを他の人と一致していることがあるに気付きました。ほとんどのグループは「原子力」の例として、戦争、戦争の抑止、政治権力、原子力発電といった内容をあげました。そして、そこでは核の技術と関連した問題である「戦争のビジネス」、「過剰消費の文化」、「核実験」、「核の冬」の他、核廃棄物の管理、環境汚染、放射能と病気が特に議論の中心となりました。また、これらの問題に対して、みんな恐怖、不安、遺憾、悪意、拒絶、不信、抑圧された記憶というふうに自らの感情を表現しました。最終的には、現在の核とのつきあい方として、メディア・市民社会の核に関する「真実」の情報の蓄積・普及、そして核兵器の製造・実験・取引の禁止、現存エネルギーの持続的な使用、代替エネルギーの開発・生成・使用、などの対策が必要であることにみんなの意見が一致しました。こうして、参加者のみなさんは歴史の間違いを認識し、このようなことを現在、それに将来も繰り返してはいけないと確信しました。

しかしまた、この小さなプログラムでは核問題の基本的なところを触れたにすぎません。みんなの心の中にはまだ「私たちは核兵器を抑止する必要があるの？」「各国は核の技術の保有を許容されるべきなの？」「核の力は安全なの？」「福島の事故が起こった今、私たちは核エネルギーをどのように考え直していけばいいの？」といった複雑な疑問や思いがありました。

それでも、このプログラムで住む場所が離れていても、核問題、健康と平和に関する理解はけっして変わらないということに気づくことができたのでした。

http://popoki.cruisejapan.com
popokipeace (at) gmail (dot) com

d) 絵で平和を表現する
最後にこのプログラムでは、みんなでポーポキ友情物語の布に平和を絵、または言葉で表現していきました。

午後からの活動

午後のプログラムにポートアイランドに住んでいる地元の人たちも何人か一緒に参加しました。そのはじまりはアレキサンダー先生によるプレゼンテーションと先生の本『ポーポキ、平和って、何色？』をみんなで読むことからでした。そして、さとこさんによる平和と禅を与えてくれる体操、ポガ（ポーポキのヨガ）がありました。その後、グループ毎に平和の形、音、においはどんなものかを考えました。そして最後に、待ちに待ったピースマップの作成を行いました。

ポートアイランドのピースマップ：平和と健康って何色？

このイベントでは、ワークショップ参加者は指定された4つのグループに分かれて、兵庫医療大学からそれぞれ別々のルートへと出発していきました。ここでの任務は島を散策していく中で平和を見つけ出し、生命というものを理解することです。それぞれのグループのメンバーは注意深く周りを観察しながら、五感を使い、平和を感じたところを絵で描いたり、メモしたりしていきました。そして、1時間の間、グループ間で考えていること、思っていることを語り合ったり、島の些細なものや奇麗なものを注意深く見たり、それらを写真で撮ったりメモしたり、そして何より「そのひとときを共に生き、共有しました。」そうして、メンバーのみんなはたくさんのイメージや体験を荷物に背負って、大学へと戻りました。

http://popoki.cruisejapan.com
popokipeace (at) gmail (dot) com

その後、それぞれのグループは自分たちの「平和との遭遇」を最もうまく描いている写真を4枚プリントアウトして、部屋の中央に置かれた大きなポートアイランドの地図に貼付けていきました。そして、そこにお絵描きとこの散策の途中で感じた印象をメモして付け足しました。その後、再び散策から得たさまざまな、そして特に印象深い体験をグループごとに発表し、共有しました。注目すべきことはすべてのグループがしばしば簡単に見落としそうな細かなことも観察していたことです。例えば、レベッカ先生とそのグループの方々は背中に太陽の暖かさを感じたとき、平和を感じたそうです。また、MC さんは地域の中に現代のものと伝統的なものが一緒にあったことに平和を感じたとか。彼はそれが今と過去の調和によって成り立っている平和だと認識しました。ハンナさんと彼女のグループの方々はなんてファミリーマートの「ファミリー」の文字を見て、家族は平和と生命の源だって言っていました。他にも、メガンさんとそのお友達はかたつむりの像のある公園で女の子とその両親が一緒に遊んでいたり、おじちゃんとおばちゃんが道を散歩しているようないくつかの平和な情景を見たそうです。そして、平和って幸せなんだな、って言っていました。私たちは生活の中のさまざまな舞台に立ち会うことができました。

他にも滝の音、ベルの音色、とりの鳴き声、子供たちの笑い声、ケーキの香り、新鮮な草を刈ったときのにおい、トンボが飛んでいる風景、そしておばあさんとそのお孫さんの間にある愛といったものがみんなの感覚に平和なひとときを与えてくれました。つまり、平和は単に争いがないというだけでなく、平安、心地よさ、良い行い、幸福、共存、理解と尊重があって、成り立っているのです。

この日の経験を通して、「私たちはみな平和に囲まれている。しかし、たまに身の回りにより注意を払い、生命、帰属社会、あるいは他の相互に関係のある環境に五感をとぎすまして観察し、価値づける必要があるのかもしれない。」ということを私たちは実感した、といってもそれは決して過言ではないでしょう。

このような平和のための美しい冒険に私たちを混ぜていただいて、ありがとうございました。ポーポキ、そしてポーポキ・ピース・プロジェクトと友達になっていただいてありがとうございました。SAS のみなさん、ポーポキはみなさんの道中の無事と健康で平和にいられることを願っています!! ☺

http://popoki.cruisejapan.com
popokipeace (at) gmail (dot) com

ポーポキと一緒に平和を創り出す集会 ～映像で考える平和～

11 月 26 日の 10:00 から 14:00 まで、ポーポキの初めてのミニ映画際を開催しました。このイベントは、神戸 YWCA,神戸 YMCA,ポーポキ・ピース・プロジェクトの三者の主催でしたが、このような共同作業も始めてでした。ポーポキの友人が約 20 人、三つの団体から参加しました。

一見無関係の映画を三本観ました。まず、在日ベトナム難民一世、二世とその家族の日常についての映画を観ました。次に観たのは、沖縄についての作品です。現地市民の四人に一人が亡くなったとされる沖縄戦、1975 年まで続いた占領、そして今日の米軍基地問題といった内容です。私たちの中で、こういうのをはじめて知った人もいて、今日の複雑な問題への入門編となりました。三つ目の映画は、グアム島の植民地化と軍事化の問題を題材にする「Insular Empire」(「離島の帝国」)という作品です。今まで知らなかったグアム問題について、驚く参加者がほとんどでした。

それぞれの上映の後でディスカッションをしました。これがまたとても活発で面白かったです！多様性の重要性や『違い』の苦しさなど、共通点が多いことにみんなが驚きました。中には、自らの無知を痛感した人もいます。そして、全員もっと知りたいという願望を抱きました。

とても面白いプログラムでしたので、ぜひまた開催したいと思います。

参加者のみなさん、ありがとうございました！そして、参加できなかったみなさん、次回のご参加をお待ちしています。

http://popoki.cruisejapan.com
popokipeace (at) gmail (dot) com

ポーポキの被災地支援インタビュー その８

今回は、梅木瑞恵さんという被災者のインタビューです。

梅木瑞恵＆安藤春菜
協力: 山口純、レベッカ・ジェニスン

震災前、梅木瑞恵さんは大型犬のライと仙台で暮らしていました。 震災直後、ペットは避難所に入れないため、ライフラインがたたれた家にそのまま住もうとしていました。しかし、余震がくるたんびに、ライはパニックを起こしていたので、 パレスチナ・オリーブの友人たちのおかげで、バスで避難するチャンスがきたとき、二人で山形、関西まで避難しました。現在、ライは山形在住。瑞恵さんは京都、左京区でパレスチナ・オリーブの仕事を続けています。 ポーポキの新しい友達春菜は、瑞恵さんの震災以降、初めての「故郷帰り」について訪ねてみました。

ハルナ（以下「ハ」）〜みずえさんは、どのようにして仙台から京都に来たのですか？
ミズエ（以下「ミ」〜バスで来ました。わたしは大型犬と暮らしていたんですけど、3 月 11 日の地震で電気、ガス、水道が止まって、わたしと犬はもうここで終わるのかなと思いました。特に水がどんどんなくなっていったとき。大型犬は水しか飲まないし。その時、あのガソリンも手に入らなかった時に、仙台から出られるようバスをチャーターしてくれた人がいたんです。
ハ：犬も一緒に乗ったんですか？
ミ：バスには子供や赤ちゃん連れの母親などの避難する方が乗ることになっていて、そこにケージに入らない大型犬が一緒に乗り込むのは、無理だろうなと思って、バスに乗るのを一度は断ったんです。そしたら、犬のためにもう一台バスをチャーターしてくれたんです。で、2 台のバスで仙台を離れました。
ハ：その後、仙台にはいつ帰られたんですか？
ミ：8 月末に震災以来初めて仙台に戻りました。まず、仙台中心地で「がんばろう！

東北」のスローガンが書かれた横断幕やポスターの多さにびっくりしました。その言葉の多さに違和感を感じました。市街地から自宅に向かうバスから、屋根にブルーシートがかけられた家があちこちに見えて、それを見た時いきなり 3 月に戻ってしまって、気が付いたら涙がこぼれていました。ブルーシートを見た時、地震の揺れがよみがえって地震後体験をとてもリアルに思いだしたというか、「ブルー」がとても嫌なものに感じました。それ以来その「ブルー」が嫌いになってしまいました。
ハ：その他に、沿岸の方にも行かれたそうですね。
ミ：ええ、車で沿岸に行きました。

- その時の印象は？ なにもなくなっているなかで、防風林だけが残っている風景があって、木の上の方は青々としているのに、木の下半分が赤茶けて枯れていて、あんな高いところまで海水が来たんだ、ということを目にました。仙台空港に行ったときも、

http://popoki.cruisejapan.com
popokipeace (at) gmail (dot) com

3m の津波が来たことを示すラインがありました。わたしの背よりもずっとずっと高いそのラインを見た時には、数字とか写真や映像では分からない津波高さを実感して鳥肌が立ちました。

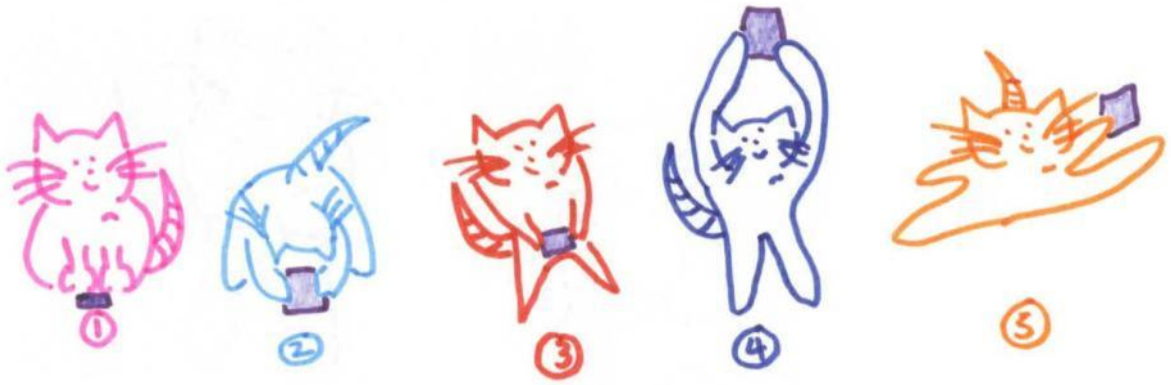
瓦礫撤去ということばは知っていたんですけど、集められた瓦礫が本当に「山」になっていて、「山」に圧倒されました。その「山」が何も残ってないところにいくつもあって木材や鉄類など素材によって瓦礫が分けられていて、そのなかでも布類の山は、津波の直前まで日常にそれを使っていたんだろうなって、それを使っていた人のことが感じられて生々しかったです。使っていた人の暮らしの跡、その人の匂い、時間、すべてが、男性とか女性とか子供とかっていうのが、布団、カーテン、洋服、帽子とかの、色や柄や大きさに全部表れているような気がして、木や鉄とは違う、人というものを感じて瓦礫としては見ることができなかったんです。
なにもないところにそういう山しかないその風景を見た時は、目の前にある物は写真や映像で切り取られたものではなく、わたしが立っているところと陸続きのものなんだよね、これって現実だよね、って自分に確かめなければならないほどでした。その風景が飲み込めなかったんです。
ハ：山の方にも行きましたか？
ミ：沿岸から離れた山の中の集落にも行ったんですけど、家がまるっきり逆さにひっくり返って、屋根が下に床が上になっていました。海から離れているのになぜ？って思ったんですが、知人が津波は川をさかのぼるんだということを教えてくれました。ひっくり返った家の中は、布団や食器や家具がそのままむきだしになっていて、人だけがいない。生きているものだけがいなくて、音もなく動くものもない。使う人のいなくなった「道具」だけが残されたという印象でした。
移動する車の中で一面に雑草が生えている光景が見えました。一面の草を見て、草に覆われてしまって津波の傷跡が隠されてしまった印象でした。津波があった日からの時間の経過を感じました。
ハ：その草は、生命力のようなものとして、復興へのシンボルのように、わたしには捉えられるのですが・・・。
ミ：わたしの印象はそのイメージとはちょっと違うと思います。雑草の生えた平地がずっと続いているのを移動しながら見ていたら、田んぼがない、ない、ないない、と思いましたもの。東北の風景は一面の田んぼや畑、果樹園のはずなのに、それに変わって雑草が生えてしまった。その土を稲や野菜が育つ土に戻すには、どれだけの時間と労力が要るんだろうと思いました。
ハ：その草にあまり良いイメージを持つことができなかったということですか？
ミ：そうですね。その草に、復興の未来のような明るいシンボルではなくて、逆に田畑が一面に広がる東北らしい風景に戻すのは簡単じゃないと思いました。復興への困難さを感じたんです。そういう風景を見てはじめて、「がんばろう！東北」のスローガンの多さの意味が分かったような気がしました。
そんなとき、ひとつの文章を読んだんです。「今必要なのは力ではない。悲しむ力だ」という。それを読んだ瞬間号泣しました。泣いていいんだ、と思って。

http://popoki.cruisejapan.com
popokipeace (at) gmail (dot) com

ポーポキちゃんの簡単ポガ教室

Lesson 43

今月のポガのテーマは、新しい本を使ってポガ！新しい本を使って癒されるといいね。



1. いつものように、背筋を伸ばし、自分を細く見せながらちゃんと座りましょう。
2. さて、両手で本を持って立ち上がり、足元に置いてみましょう。できる方は、膝もしっぽもまっすぐ。
3. では、次に本を持ちながら手をまっすぐに前へ伸ばす。しっぽは後ろへ・
4. つぎに、両手で本を持ちながら、頭の上へ。いっぱい伸ばしてね。
5. できた！　できたポーズをどうぞ！（本は片手でいいです。）

お疲れ様でした。第 43 回目のポガ･レッスンはこれで終わります。少しリラックスできましたか？毎日、深呼吸・笑・リラックス、そしてポガを最低 3 分間練習しましょうね。

ご一緒にいかが？

次回のポー会　2012. 1. 23(火)　神戸 YMCA　306 号室　19:00～

2012. 12. 18　健康サポートセンター　イエローハウス　健美館（けんびかん）　開会式！　（ポーポキ友情物語展も！）

2012. 2. 10-11　ポーポキ友情物語展示＆実践（予定）at 健康サポートセンター　イエローハウス　健美館（けんびかん）

2012. 2. 25-26　「第 12 回（2011 年度）中日本地区 YMCA グローバル教育研修会」にポーポキ！　六甲山 YMCA。　対象：ＹＭＣＡの国際活動・グローバル教育に関心のある方。

2012. 3. 8　人権講演会にポーポキ(＆ロニー)。尼崎市立塚口総合センターと塚口本町人権啓発推進委員会主催。午後７時～８時３０分。　場所：尼崎市立塚口総合センター　集会室尼崎市塚口本町２丁目２８番１１号。

http://popoki.cruisejapan.com
popokipeace (at) gmail (dot) com

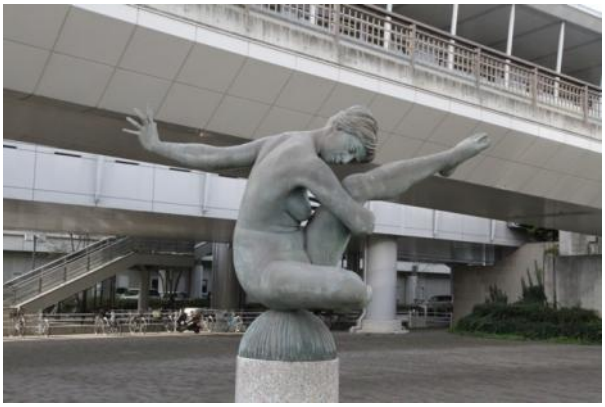
ポーポキ in メディア

ポーポキ通信のバックナンバー：http://popoki.cruisejapan.com/archives.html

- K. Wada. “Conversations with Ronni Alexander: The Popoki Peace Project; Popoki, What Color is Peae? Popoki, What Color is Friendship?” *International Feminist Journal of Politics* Vol.13, No.2, 2011, 257-263
- S. McLaren. “The Art of Healing”(Popoki Friendship Story Project) *Kansai Scene*. Issue 133, June 2011, p.10. kansaiscene.com
- R. Alexander. (2010) “The Popoki Peace Project: Creating New Spaces for Peace in Demenchonok, E., ed. *Philosophy after Hiroshima.* Cambridge Scholars Publishing, pp.399-418
- **「省窓」『神戸青年』 No.606 2011.1.2 p.1**
- No.1「『ポーポキ、平和って、なに色？』の背後にあるもの」（連載） とさぼりライフ第 19 号 2010.10:4
- 堀越健志「シリーズ：こくさいのまで⑮(パレスチナについて) 『神戸青年』No.604 2010.9-10
- 「みんなでやれば、何にかが変わる！」 THE YMCA No.607 June 2010, p.1
- [ヒロシマと世界： 被爆地の声 非核と平和、復興と再生、許しと命の尊厳訴え] **http://www.hiroshimapeacemedia.jp/mediacenter/article.php?story=20100312140608602_ja**
- 2010.3.15 中国新聞 ヒロシマ平和メディアセンター
- FM COCOLO 76.5 ‘Heart Lines’ 2010.1.9 Interview: Ronni on Popoki in Palestine
- “Human Rights, Popoki and Bare Life.” *In Factis Pax Journal of Peace Education and Social Justice* Vol.3, No.1, 2009, pp.46-63 (http://www.infactispax.org/journal/)
- 西出郁代 「ポーポキ、平和って、なに色？ロニー・アレキサンダーを迎えて」『PPSEAWA』（日本汎太平洋東南アジア婦人協会） No.63 2009.12, p.5.
- 「友情」第 2 号 2009.11 伊丹市国際・平和交流協会 年間事業報告 pp.1-2
- 「ともに・・・」 No.29 2010.1 家庭と保育所、学校園、地域を結ぶ在日外国人教育情報誌 ポーポキ・ピース・チャンレジ情報 p.12
- 区民情報誌「なだ」 2009.12, p.2. ポーポキ・ピース・チャレンジ情報。
- 「『ポーポキ、友情って、なに色？』」「私のいち押し」 奥田光子 THE GAIDAI 2009.7.17 No.243 （関西外大通信）
- 「友情って・・・考える絵本」 朝日新聞 「生活」(阿久沢悦子） 2009.7.2
- 「友情を考えて~人間と、ねこと、そして自分と～」 れ組通信 RST/ALN 2009.6.28 No. 259, p.11
- 「カティング・エッジ」 第 35 号 2009.6 （北九州市立男女共同参画センター「ムーブ」）「新刊紹介：『ポーポキ、友情って、なに色？ポーポキのピース・ブック 2」（レベッカ・ジェニスン） p.3
- 「猫を通して平和を考える 絵本の第 2 弾を出版」（斎藤雅志） 神戸新聞 2009.4.21
- 「ポーポキ、平和ってなに色？」 KOBE YMCA NEWS 「神戸青年」 2009.3.1 No.593 p.2
- 「ポーポキ、ゴミってなに色？」 KOBE YMCA NEWS 「神戸青年」 2009.1.1 No. 592 p.2
- 「友だちになってくれませんか？」 RST／ALN 2009.2.22
- ラジオ番組の中のポーポキ！！！プロジェクト・メンバーの宇留賀佳代子さんがラジオ番組で紹介してくださいました。ぜひお聞きくださいね。 http://www.kizzna.fm/ 録音番組をクリック。番組 CH の6CH をクリック。
- やさしいから人なんです展パート20 実行委員会 『世界人権宣言』 ひょうご部落解放・人権研究所 2008. 10 500 円。 詳しくは： blrhyg@osk3.3web.ne.jp
- 「KFAW カレッジ ロニー・アレキサンダー氏 講演会」 エイジアン・ブリーズ/Asian Breeze No.54 October 2008, p.8 （アジア女性交流・研究フォーラム）
- 「ピースセミナー in 熊本 あなたにとっての「平和」とは？」 Kumamoto YMCA News 10 Vol.437 October 2008, p.1
- 神戸新聞 「人権宣言 兵庫から発信 全 30 条 イラストで表現 地元ゆかり 6 名がパネル制作」 2008.10.8. 10 面
- 「社説 終戦の日」 神戸新聞 2008. 8. 15
- 中国新聞 「核廃絶への視点」 2008. 7. 27 （核抑止論について・・・。3時間！？！にわたる取材で一生懸命にポーポキのことを話したのに・・・。

私にとってのポーポキ

サリー・マクラーレン



私が日本で学んだ重要な概念の一つは「クリティカルはクリエイティブである」ということです。批判することや批判的になることはよく否定的に見られます。しかし、批判的に考えるということは変化への可能性を提供します。問題は、創造的な目標へのクリティカルな道をとるのは容易ではありません。それには、皆が持っていない、もしくは気にもとめない、エネルギー、努力、集中が必要です。それゆえ、批判的にいることは、ネガティブすぎると捉えられ、無視されたりします。

１１月、私が参加したポートアイランドでのポーポキのピースマップイベントで、「クリティカルはクリエイティブである」の価値を思い出させられました。私たち、批判的な目を持ちながら、ポートアイランド周辺を歩きました。しかし、どのように創造され、そこに存在しているのかを理解することができました。最後に、私達は何が改善出来るか、そして、どのようにポートアイランドがもう一度想像できるかを創造的に考えました。ピースマップを学び、外を歩き回り、新しくて面白い人々に出会うことは楽しく、とても有益でした。

さらにご協力ください！

ポーポキ･ピース･プロジェクトは、『ポーポキ、平和って、なに色？ポーポキのピース・ブック1』(エピック、2007年)、『ポーポキ、友情って、なに色？ポーポキのピース・ブック2』(エピック、2009年)を題材に、全身で平和の意味を探り、一人ひとりの「発見」を平和の創造に役立てようとする小さな平和活動団体です。また、2011 年に起こった東日本大震災をきっかけに活動をしており、『ポーポキ友情物語　東日本大震災で生まれた私たちの平和の旅』という本を 2012 年 1 月に発行します。2006年に設立されて以来、日本国内外で幅広く平和のためのワークショップなどの開催を続けてきました。活動の資金はすべて本の売上や寄付によって行っています。

これからも平和を考えるためのピース･ワークショップ、読み聞かせ、ピースキャンプ参加、ポーポキのピース・ブックの翻訳(『ピース・ブック1』は既に10ヵ国語に翻訳されている)、『ポーポキのピース･ブック3』の執筆などの活動を中心に活動を続ける予定です。定期例会「ポー会」を月に一度のペースで開催しています。一緒に活動なさりたい方はぜひご参加ください。(ポー会の開催については、ポーポキ通信の「ご一緒にどうぞ」の蘭をご参照されたい。)

また、こういった活動に対してのご協力、ご支援をぜひお願いいたいと存じます。本の購入・寄付・本についてのコメント、感想、注文などについては、popokipeace@gmail.com へお問い合わせください。

なお、本についての問い合わせや注文は、お近くの書店、アマゾン、あるいはエピック(TEL: 078-241-7561･FAX: 078-241-1918)へどうぞ。

ポーポキ・ピース・プロジェクト　popokipeace(at)gmail.com

http://popoki.cruisejapan.com
郵便振替口座番号　00920－4－280350
ゆうちょ銀行　店番099　店名099店　当座　口座番号0280350
口座名　　ポーポキ・ピース・プロジェクト神戸

ポーポキ平和募金は一口 1500 円　何口でも結構です。